

「新型コロナウイルス」に対する学校の対応策について

2020年2月19日

ミッドリーム日本語学校

校長 山田貴彦

現在、中国武漢市を中心に「新型コロナウイルス」の感染が蔓延しています。このコロナウイルスの感染力の強さと死傷者が出ている現状を踏まえ、本校では1月28日より対策をしました。

この対応につきまして、文部科学省が2月18日に新たな通知を全国の小学校・中学校・高等学校、大学、専門学校、各種学校、その他教育関連機関宛に出しました。この通知に沿って、本校の対応方針を下記のように変更します。

※以下、変更点を赤字で記します。

対応方針

1. 1月14日以降中国から日本に入国した生徒については、2週間の自宅待機を命じ、~~その間は~~
休学とする。
2. **自宅待機期間中**に体調を崩した生徒については、医療機関への受診を勧める。
3. **自宅待機期間**が明けた時に体調を崩している生徒については、医療機関受診し、感染が認められないことがわかってから登校を許可する。
4. 教職員についても、1～3と同様の対応をする。
5. 校内各所にアルコール消毒薬を用意し、感染症全般に対する予防を促す。
6. うがい、手洗い、咳エチケット、十分な食事と睡眠などの感染症全般に対する予防を促す。
7. **生徒または教職員が新型コロナウイルスへの感染した場合は、その者を休学または出勤停止とし、完治したという診断が出るまで校舎への出入りを認めない。**
8. **休校については、「出入国及び難民認定法」、「その基準省令」、「日本語教育機関の告示基準」の定めで、本校が独自に判断することはできない。現在、日本語教育振興協会を通じて、出入国在留管理庁に問い合わせを行っている。休学の必要性和判断基準について回答待ちであり、その回答に沿って、今後の休校の判断を行うこととする。**

※上記対応につきましては、新型コロナウイルスの蔓延状況が変わったり、文部科学省や厚生労働省、出入国在留管理庁が新たな方針を出したりした際には、対応方針を変えていく予定です。

今日現在、日本国内において新型コロナウイルスが大規模に流行している状態ではありません。また、本校においても感染者は確認されていません。本校の生徒、教職員、関係者の皆様におかれましては、上記対応方針をご理解いただいた上で、落ち着いて行動していただければと思います。